

教育研究業績書

2023年10月23日

所属： 建築学科

資格： 准教授

氏名： 大井 史江

研究分野	研究内容のキーワード
建築設計・建築計画	柱 空間 御柱 小宮 塔
学位	最終学歴
工学修士	福井大学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 2014年度海外研修	2014年8月～2014年9月	学部2～3年生を対象に、2週間イタリア・フランスの建築と都市を見学する研修に学生19名を引率した。見学先では学生の手本となるように教員自身もスケッチをした。研修の様子は毎日学科HPで公開した。
2. JABEE認定（建築系学士修士課程）	2013年4月	建築学科・建築学専攻の教育は、日本初の建築系学士修士課程6年間のJABEE認定により、UNESCO-UIA建築教育憲章対応プログラムとして国際的に認められた。
3. JABEE認定（エンジニアリング系学士課程）	2013年4月	2011年度から遡って6年間の認定。 建築学科の学士課程プログラム（4年）はエンジニアリング系学士課程建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング部門において、2011年度から遡り6年間の認定を受けた。
4. 設計演習における中間講評会の実施	2012年4月～	「建築設計演習Ⅲ、Ⅴ」で課題期間の中ほどに検討の途中経過を発表する機会を設けている。履修生は模型とスケッチを提示し教員から指導をうけることで、より検討が必要な個所を認識することができ、検討案の改善をはかるきっかけとなる。教員も個々の履修生の進捗が把握でき、指導方法を検討することができる。
5. 自然素材を利用した茶室の制作	2011年10月～2012年1月	西宮市山口地区で竹を採取し、2畳の茶室を制作した。工業製品を利用する制作作業と大きく異なるのは、一本一本の竹の形状が異なるため、それらをよく見て加工を行うことである。さらによしずを用いて屋根を仕上げた。
6. トルコ パフチェシヒル大学における交換留学の引率	2011年9月～2011年10月	2008年に締結したトルコ・パフチェシヒル大学との一般交流協定に基づき17日間修士課程1年生7名を引率し、パフチェシヒル大学企画のプログラムである保存修復関連の実務訓練を行った。学生の手本となるように教員自身もスケッチをした。また、現地と帰国後、それぞれで学生たちのスケッチ展を開催。下級生を対象に報告会を実施し海外の建築物への興味を喚起した。研修の様子は毎日学科HPで公開した。
7. 竹を利用した茶室の制作	2010年10月～2011年1月	西宮市山口地区で竹を採取し、2畳の茶室を制作した。工業製品を利用する制作作業と大きく異なるのは、一本一本の竹の形状が異なるため、それらをよく見て加工を行うことである。さらに縁側から見える庭園も計画し、キャンパスを開放したライトアップのイベントで学外からの来学者にも公開した。
8. 紙管を使用した空間計画	2010年9月	紙管は材軸方向に使用すると、簡易な建築物であれば強度も期待され、また軽量のため女性に取り扱いが容易である。学生による各自の設計案制作に先立ち、紙管の小屋を制作し、部材の取り付け方をはじめ施工の方法を体験し理解を深めたうえで各自が設計提案を行った。
9. 2009年度海外研修	2009年8月～2009年9月	学部2～4年生を対象にイタリアコースとバルセロナ・フランスコースの2コースを企画し、後者の担当者として学生36名を2週間引率した。見学先では学生の手本となるように教員自身もスケッチをした。帰国後、学生たちのスケッチ展を開催。また1年生を対象に報告会を実施し海外の建築物への興味を喚起した。研修の様子は毎日学科HPで公開した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
10. 学生の積極的参加を促す講評会の実践	2009年～現在	「建築設計演習Ⅲ～Ⅴ」「建築設計総合演習Ⅰ」では最終講評会とで、教員・外部講師以外に発表を聞いている学生たちにも質問やコメントを述べる場を設けている。また、瞬時に同級生の提案の良い点、改善が必要と思われる点などが付く訓練としてコメントや意見を記入できる用紙を配布し講評会終了後に提出してもらい、後日製図室にコメント用紙のコピーを提示し、限られた授業時間の中で相互に意見が交換できるようにしている。
11. 福祉環境整備教育での参加・体験型授業の実践	2007年10月～現在	学生たちが高齢者・身障者の身体的特性を理解し福祉環境整備の必要性を実感する目的で、車いすを操作しながら校舎内を移動し、不都合が生じる個所を認識する。あらかじめ講義で知識として得た各部計画の手法を、随所で必要な寸法や空間計画を体験とともに実感するプログラムを展開。
12. 小テストの実施と答案の返却	2007年10月～現在	「建築設計計画Ⅲ」「建築設計論Ⅰ」「建築計画論Ⅱ」では、授業の冒頭に前回までの内容を踏まえた知識定着のための小テストを実施している。試験後に回答を配布し、自己採点してもらい提出。理解が不十分と思われる個所は次の授業の冒頭で説明する。学生は自らの現状の到達点を認識できる。
13. 2007年度海外研修	2007年8月～2007年9月	学部2年生29名を引率し、学部1年後期から2年前期にかけて開講された歴史系授業で得た知識を現地で確認することを目的として2週間のイタリア海外研修を実施。見学先では学生の手本となるように教員自身もスケッチをした。帰国後、学生たちのスケッチ展を開催。また1年生を対象に報告会を実施し海外の建築物への興味を喚起した。研修の様子は毎日学科HPで公開した。
14. 設計演習における作品の展示	2007年1月～現在	「建築設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」「建築設計総合演習Ⅰ、Ⅱ」ではすべての履修生が各課題の作品を展示することで、学生の意欲を向上させ、一般の見学者や学内来訪者にも公開し、学外の人々の学科への理解も図っている。
15. 設計演習における講評会の実践	2007年1月～現在	「空間表現応用演習」「建築設計演習Ⅰ～Ⅴ」において各課題の最後に履修生全員が制作した図面と模型を発表する場を設けている。担当以外の教員、学外からの講師にも参加いただく。発表する学生にとっては提案を第三者へ説明する練習となり、参加する教員にとっては教授法などを互いに参考としあう機会となる。
16. アンケートによる授業改善	2007年～	「初期演習」「建築計画Ⅲ」「建築設計計画Ⅱ」において自由記述式のアンケートを自主的に実施。学生の感想や意見、質問を即座に把握し、次回の授業に反映させる。
17. 教員自身による設計案の検討と学生への提示	2006年11月～	「空間表現応用演習」「建築設計演習Ⅰ～Ⅴ」において教員自身も案を検討しスケッチ、スタディ模型を教員の机に提示し、検討のプロセス、作図法など学生たちの見本となるようにしている。
18. 演習・講義の理解度向上のための学外の建物見学	2006年4月～現在	「フィールドワーク」は学部1年生～4年生前期、修士1年～2年前期二次視される。講義や演習の内容と関連付けて、現地に赴くことでより一層の理解を図る。
19. パワーポイントを活用した視覚に訴える授業	2006年4月～現在	「初期演習」「建築計画Ⅲ」「建築設計計画Ⅱ」「建築設計演習」課題説明、「建築設計論Ⅰ」「建築計画論Ⅱ」ではパワーポイントによるスライドを活用した授業を実施している。写真や図を用いることで視覚に訴え、理解を深めることができるように工夫をしている。
2 作成した教科書、教材		
1. 武庫川女子大学建築学科平成26年度2年「建築設計計画Ⅱ」	2014年9月～10月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2. 武庫川女子大学平成26年度前期建築設計演習Ⅲ	2014年6月	の作成 課題3「大規模群衆を安全快適に誘導する駅舎」
3. 武庫川女子大学平成26年度前期建築設計演習Ⅴ	2014年5月	課題2「病院」
4. 武庫川女子大学建築学科平成25年度2年「建築設計計画Ⅱ」	2013年9月～10月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成
5. 武庫川女子大学平成25年度前期建築設計演習Ⅲ	2013年6月	課題3「大規模群衆を安全快適に誘導する駅舎」
6. 武庫川女子大学平成25年度前期建築設計演習Ⅴ	2013年5月	課題2「病院」
7. 武庫川女子大学建築学科平成24年度2年「建築設計計画Ⅱ」	2012年11月～12月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成
8. 武庫川女子大学平成24年度前期建築設計演習Ⅲ	2012年6月	課題3「大規模群衆を安全快適に誘導する駅舎」
9. 武庫川女子大学平成24年度前期建築設計演習Ⅴ	2012年5月	課題2「病院」
10. 武庫川女子大学建築学科平成23年度2年「建築設計計画Ⅱ」	2011年11月～12月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成
11. 武庫川女子大学平成23年度前期建築設計演習Ⅲ	2011年6月	課題3「大規模群衆を安全快適に誘導する駅舎」
12. 武庫川女子大学平成23年度前期建築設計演習Ⅴ	2011年5月	課題2「病院」
13. 武庫川女子大学建築学専攻平成22年度建築設計総合演習Ⅱ	2010年10月	課題2「竹を使用した茶室」
14. 武庫川女子大学建築学科平成22年度2年「建築設計計画Ⅱ」	2010年9月～10月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成
15. 武庫川女子大学建築学専攻平成22年度建築設計総合演習Ⅱ	2010年9月	課題1「紙管を使用した住居と集落」
16. 武庫川女子大学建築学専攻平成22年度建築設計総合演習Ⅰ	2010年6月	課題3「膜屋根による半屋外遊戯場があるこども館」
17. 武庫川女子大学平成22年度前期建築設計演習Ⅲ	2010年4月	課題1「両親と三世代で住む家」
18. 武庫川女子大学建築学科平成21年度2年「建築計画Ⅲ」	2009年9月～10月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成
19. 武庫川女子大学平成21年度後期建築設計演習Ⅳ	2009年9月	課題1「演劇や音楽を楽しむ空間」
20. 武庫川女子大学平成21年度前期建築設計演習Ⅲ	2009年6月	課題3「大規模群衆を安全快適に誘導する駅舎」
21. 武庫川女子大学平成21年度前期建築設計演習Ⅰ	2009年5月	課題2「両親の家」
22. 武庫川女子大学平成21年度前期建築設計演習Ⅲ	2009年4月	課題1「両親と二世代で住む家」
23. 武庫川女子大学平成20年度特別学期「地域と建築を考えよう」	2009年2月	地域性、土地性、住む人々の自然観や価値観により生まれる建築をとおして、21世紀にもとめられる国際化について考えるために、豊富な写真を用いたパワーポイントのスライドを作成した。
24. 武庫川女子大学平成20年度後期建築設計演習Ⅳ	2008年11月	課題3「歩いて楽しい商業空間」
25. 武庫川女子大学建築学科平成20年度2年「建築計画Ⅲ」	2008年10月～11月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとする具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成
26. 武庫川女子大学平成20年度後期建築設計演習Ⅳ	2008年10月	課題2「隣と親しくなる中低層の集合住宅」
27. 武庫川女子大学平成20年度後期建築設計演習Ⅳ	2008年9月	課題1「演劇や音楽を楽しむ空間」
28. 武庫川女子大学平成20年度前期建築設計演習Ⅲ	2008年6月	課題3「大規模群衆を安全快適に誘導する駅舎」
29. 武庫川女子大学平成20年度前期建築設計演習Ⅰ	2008年5月	課題2「両親の家」
30. 武庫川女子大学建築学科平成20年度1年「建築法規Ⅰ」	2008年4月～7月	条文を読んだだけではわかりにくい建築基準法とその施行令について図を用いて視覚的に理解を促す配布資料とパワーポイントでのスライドを作成した。
31. 武庫川女子大学建築学科平成20年度1年「初期演習」	2008年4月～2009年1月	学部1年生が建築に興味を持てるような様々な建物の事例紹介、および建築構法について、視覚的に理解できるように配布資料と豊富なパワーポイントのスライドによる教材を作成した。
32. 武庫川女子大学平成20年度前期建築設計演習Ⅲ	2008年4月	課題1「両親と二世代で住む家」
33. 武庫川女子大学平成19年度特別学期「建築空間とただならぬかたち」	2008年2月	建築空間にみられる幾何学形態とはどのような意味づけをされ、建築計画がなされているのかを理解しやすいように、国内外の事例をパワーポイントのスライドとした。
34. 武庫川女子大学建築学科平成19年度2年「建築計画	2007年10月～11月	福祉環境整備の必要性、バリアフリー法をはじめとす

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
Ⅲ」 35. 武庫川女子大学平成19年度前期建築設計演習Ⅱ 36. 武庫川女子大学平成19年度前期建築設計演習Ⅰ 37. 武庫川女子大学建築学科平成19年度共通教育科目「空間と表象」 38. 武庫川女子大学建築学科平成19年度1年「建築法規Ⅰ」 39. 武庫川女子大学平成18年度特別学期「建築空間とただならぬかたち」 40. 武庫川女子大学建築学科平成18年度共通教育科目「空間と表象」 41. 武庫川女子大学建築学科平成18年度1年「建築法規Ⅰ」	2007年7月 2007年5月 2007年4月～7月 2007年4月～7月 2007年2月 2006年4月～7月 2006年4月～7月	る具体的な計画の手法など視覚的に理解しやすい教材の作成 課題1「祈りや癒しの空間」 課題2「両親の家」 毎回、空間、部屋、光、光と闇、入り口、地形と記憶などテーマを決め、理解を深めるために豊富な写真を用いたパワーポイントのスライドを作成。 条文を読んだだけではわかりにくい建築基準法とその施行令について図を用いて視覚的に理解を促す配布資料とパワーポイントでのスライドを作成した。 建築空間にみられる幾何学形態とはどのような意味づけをされ、建築計画がなされているのかを理解しやすいように、国内外の事例をパワーポイントのスライドとした。 毎回、空間、部屋、光、光と闇、入り口、地形と記憶などテーマを決め、理解を深めるために豊富な写真を用いたパワーポイントのスライドを作成。 条文を読んだだけではわかりにくい建築基準法とその施行令について図を用いて視覚的に理解を促す配布資料とパワーポイントでのスライドを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 講演「恐竜博物館の建築」 2. 講演「恐竜博物館の建築」 3. 講演「恐竜博物館について」 4. 講演「福井で建築を楽しむ」 5. 大阪国際大和田高等学校出張講義 6. 講演「建築を作る楽しみ」 7. 親和女子高等学校出張講義（建築分野） 8. 講演「恐竜博物館の建築」	2015年4月11日 2013年4月14日 2010年8月29日 2009年5月28日 2008年10月29日 2008年8月23日 2008年7月～現在 2008年4月12日	福井大学工学部建築建設工学科新入生合宿研修において、設計事務所勤務時代に設計監理を担当した福井県立恐竜博物館について現地で講義を実施した。事務所での業務の進め方、プロポーザル・設計・現場監理・アフターケアなど各段階での経験、学生のうちにできることとしておくべきことについて説明し、講義後に質疑応答に対応した。 福井大学工学部建築建設工学科新入生合宿研修において、設計事務所勤務時代に設計監理を担当した福井県立恐竜博物館について現地で講義を行った。事務所での業務の進め方、プロポーザル・設計・現場監理・アフターケアなど各段階での経験、学生のうちにしておくべきことを説明し、最後に建物内部を案内しながら質疑応答に対応した。 2010年北陸地区鳴松会での講演。設計事務所勤務時代に担当した福井県立恐竜博物館を会場として、プロポーザル・設計・監理・アフターケアなど建築業務について説明。さらに館内を見学しながら質疑応答に内応し、参加者に地元の建築について理解を深めていただく。 福井の建築材料研究会における講演。学生時代に所属していた研究室で設計に参加した建物と設計事務所勤務時代に設計監理を担当した福井県立恐竜博物館を中心に、使用した福井県産材をどのように検討して使用したのかを紹介。 建築とは何か、建築に関わる職業、建築学科ではどのように学ぶのか、教員の研究内容と作品の紹介などを豊富な写真を用いて説明する。 2008年北陸地区鳴松会での講演。卒業生の方々に新しく解説された建築学科について理解を深めていただいた。建築学の紹介、武庫川女子大学建築学科で実践している教育事例や作品の紹介、設計事務所勤務時代の担当作品の紹介など。 年1回実施。建築とは何か、建築に関わる職業、建築学科ではどのように学ぶのか、教員の研究内容と作品の紹介などを豊富な写真を用いて説明する。 福井大学工学部建築建設工学科新入生合宿研修におい

教育上の能力に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
		て、設計事務所勤務時代に設計監理を担当した福井県立恐竜博物館について現地で講義を行った。事務所での業務の進め方、プロポーザル・設計・現場監理・アフターケアなど各段階での経験、学生のうちしておくべきことを説明し、最後に建物内部を案内した。		
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格、免許				
1. 福祉住環境コーディネーター2級	2004年	高齢者や障がい者に対し、できるだけ自立し生活できる住環境を提案するアドバイザーである。医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身に付け、各種の専門家と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示する。		
2. 一級建築士	1996年02月	国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、建築物に関し、設計、工事監理その他の業務を行う者をいう		
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
1. 武庫川女子大学建築スタジオ・竣工記念シンポジウム「女性の感性と建築」パネリスト	2007年7月21日	永山佑子氏、笹岡隆甫氏、菊川怜氏とのパネルディスカッション。「学生時代に本物にふれ、長い目で見たときに今の自分にとって何が必要なかを考えながら自分を大切に、一日一日を丁寧に過ごしてほしい。」という考えのもとに、前年度の学科開設からの建築学科での教育の実例を紹介。		
2. 日刊建設工業新聞 鼎談 コンクリート構造物の安全性をさぐる	2006年12月18日	片岡宏治 宮川豊章 大井史江 コンクリートに対する市民の理解が不十分なことを踏まえ、コンクリートへの理解をもっと深めてもらうにはどうしたらよいかを、コンクリートの専門家と語る。設計事務所勤務時代の体験などを交え、コンクリート、デザイン、土木などをキーワードに今後のコンクリートの可能性について考える。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 奈良盆地の山麓に立地する明神大社の立地特徴 — 奈良盆地における明神大社の立地に関する一考察 その2 —	共	2021年9月	日本建築学会2021年度大会（東海）学術講演梗概集	延喜式に記載の神をまつるための「山川清き地」も奈良盆地内では以下のように地域ごとに異なる立地の特徴がみられた。 山の辺：山麓に立地するものが多く、河川付近に少ない。 生駒・二上山：山麓に立地するものが多く、河川付近、特に合流点付近が多い。 葛城：山麓に立地するものが多く、河川付近も多い。 飛鳥・藤原宮跡：山麓より平地に立地するものが多く、平地で河川付近に立地するものが多く。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 「ORIGINALITY OF CENTRAL COLUMN IN JAPANESE PAGODAS (査読付)」	単	2013年3月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, selected papers	An investigation of the relationship between the wooden central columns in Japanese pagodas and pillars revealed several interesting findings. Ancient peoples used pillars as units representing the number of spirits. They believed that pillars existed prior to the world's creation. This basic knowledge will serve as the groundwork for determining the reason for the central column in Japanese pagodas.
2. 「居住空間構成法と知的障害児 (査読付)」	共	1997年6月30日	日本建築学会計画系論文集 (496), 237-245, 1997-06	岡崎甚幸 大井史江 山口直子 浦崎寿輝 居住空間構成法で自閉症、ダウン症、精神遅滞の障害児に模型を制作してもらい、その過程と作品を分析した。これまで児童、統合失

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			-30 一般社団法人 日本建築学会	調症者などにも制作してもらったが、障害児特有の傾向も見られた。共同研究につき担当分野の抽出は困難。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Suwa Grand Shrine and Surrounding Komiyas	単	2015年3月25日	iaSU 2015 International Conference “Archi-Cultural Interactions through the Silkroad”	Yamaga-go in Chino City has several shrines without Komiyamatsuri. The gods and goddesses of these shrines have the same genealogy as those of the Suwa Grand Shrine, and people participate in the Onbashira-matsuri for Suwa Grand Shrine even though they do not have a Komiyamatsuri for their own community shrines. This is a demonstration of their predominance over other communities. Moreover, Yamaga-go is a hunting field to obtain deer for sacrifices at Suwa Grand Shrine, and it has a closer relationship with this shrine than other communities.
2. シャルロット・ペリアンの創作活動における日本文化の影響	共	2012年8月	日本建築学会学術講演梗概集	本郷佑奈 大井史江 シャルロット・ペリアンはル・コルビュジェのアトリエで屋内設備のデザインをしていた。1940年、1953年の日本での滞中で、日本文化の中の住まいの規格化と民芸における職人の技術に感銘を受けた。それらは彼女の創作活動にも影響を与えた。指導教官につき担当分野の抽出は困難。
3. ORIGINALITY OF CENTRAL COLUMN IN JAPANESE PAGODAS (査読付)	単	2012年7月	iaSU2012 JAPAN 第2回「シルクロードを通して見た建築と文化」国際会議, extended abstract	The Japanese word “Tou”, means “tower”, is derived from “stupa” in the ancient Indian language, Sanskrit. A stupa is a Buddhist pagoda. There are about two hundreds and ten wooden pagodas in Japan. There is a central column in almost all of them. However, it has no structural purpose. Therefore it is not joined to another part the surround. Pillar isn't elements of building, but is symbolic of something. In Japan, it is thought as source of space, and used as counting gods unit. The purpose of this paper is to list up pagodas and pillars in the related countries, and to clear the needs researches. This is basic investigation for the final investigation. My final goal is to elucidate the reason for the wooden central column in Japanese pagodas.
4. 精神分裂病者のための居住空間構成法について	共	1992年8月	日本建築学会学術講演梗概集1992年8月	岡崎甚幸 大井史江 居住空間構成法は600×900のホワイトボードに、縮尺1/50の人、家具、磁石により自立する壁などを配置し、制作者が理想とする空間を作ってもらい、制作過程と作品から制作者に内在する図式、空間の統合性・配置などを分析する手段である。ここでは居住空間構成法の概要および、意識・無意識、内的基準である「世界図式」との関連について述べている。本研究では制作準備、制作の記録、データ収集、分析などを担当した。
5. 居住空間構成法による精神分裂病者の作品の特性	共	1992年8月	日本建築学会学術講演梗概集	岡崎甚幸 大井史江 居住空間構成法により統合失調症者（分裂病者）が制作した作品を取り上げ、制作過程、作品の中で特筆すべき点について述べた。抽象的な概念操作が不得意であることから統合失調症特有の傾向がみられる。また統合失調症にも大きく2つのタイプがありそれにより作品に特徴的な傾向がみられる。本研究では制作準備、制作の記録、データ収集、分析などを担当した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.0邸	単	2013年3月		北に浅間山、南に北八ヶ岳の代表的存在の蓼科山を望む田園地帯の木造2階建て2世帯住宅。特に将来高齢の親世帯が使用することを想定した福祉住環境整備の提案を行う。
2. cafe G	単	2013年1月～2013年4月		長野新幹線が停車する佐久平駅構内の座席数48のカフェの提案。以前の飲食店と一般客の通路との間に設けられていたパーティションを取り除き、フロア中央にある池まで外光が入るようにすることで開放的に利用しやすい空間とし、家具も含め全体の提案をした。
3. 京都府新総合資料館設計競技	共	2011年6月		岡崎甚幸 大谷孝彦 榎原潤 田崎祐生 大井史江 柳沢和彦 杉浦徳利 鈴木利友 天島秀秋 森本順子 山門、仁王像、磐座など

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
4. 西宮市本町広場基本構想	単	2011年1月		京都に固有の風景を取り込み、さらに太陽光パネル、屋上緑化、クールチューブなどを採用した環境に配慮した施設の提案。環境に大きく影響するペリゾーンの断面計画及び建物全体の断面計画を担当。
5. 千鳥ヶ淵 抑留者合同慰霊碑	共	2009年9月～10月		西宮えびすに通じる旧国道沿いの防火緑地の一角を市民に開放し、町の行事などに利用できる広場を提案。阪神地域で産出される御影石を利用し、取り外し容易な膜屋根で日陰を作り、かつての海岸線の再現としてクロマツを植樹した基本構想。全体計画を担当。
6. 旭川合同庁舎Ⅱ期工事	共	2005年3月～2006年3月		岡崎甚幸 吉田博宣 柳沢和彦 大井史江 杉浦徳利 鈴木利友 天島秀秋 森本順子 第2次世界大戦後の旧ソ連・シベリアやモンゴルでの抑留や、引き揚げ時に命を落とした人たちの合同慰霊碑の基本構想。既存植栽を保護、サウンドスケープを用いた祈りと癒しの空間を提案した。樹木保護のための舗装計画とサウンドスケープ創出のための水琴窟の計画担当。
7. 南京芸蘭斎美術館		2004年10月～2005年2月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。I期工事の西側に、ガラス張りのアトリウムを挟んで立つ。アトリウムはシビックコア地区のランドマークとなるよう宮前通りへの正面性と風格を創出する象徴的なデザインである。意匠主任技術者として基本設計と実施設計を担当。
8. 支笏湖Sホテル	共	2004年7月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。I期工事の西側に、ガラス張りのアトリウムを挟んで立つ。アトリウムはシビックコア地区のランドマークとなるよう宮前通りへの正面性と風格を創出する象徴的なデザインである。意匠主任技術者として基本設計と実施設計を担当。
9. バンコク副都心プログラム実施調査プロポーザル	共	2004年7月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。個人所蔵の美術品を展示するおよそ2万㎡の美術館。南京明代の城壁のイメージを抽象化し空間を構成している。江南地方の民家の幾重にも重なった屋根のイメージは抽象化され、水平に重なる屋根の隙間から内部に自然の光を導入している。方案設計および実施設計を担当。
10. ハーパープレイス整備計画	共	2004年5月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当プロポーザルである。JICAに対する業務実施の基本提案。提案書作成担当。
11. T社千種タワー	共	2004年		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における提案である。名古屋港金城ふ頭地域の開発計画である。21世紀の経済発展のリード役であるアジアを中心とした新しいライフスタイルを食、住、衣、教育、健康、医療、IT、リゾート、娯楽、業務、芸術文化のあらゆる面から世界へ発信する。計画地域内の各種建築施設の基本構想担当。
12. 鄭州新都心商業施設		2003年8月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。千種地区のランドマーク的なタワー型住居棟と穏やかな曲線を描く店舗棟からなり、URによる開発地区の一角に建つ高層マンション。建物の四隅を曲面ガラスとし、バルコニー形状や窓に変化を与えている。基本設計担当。
13. クアラルンプールバイオバレー基本構想		2003年5月～2003年6月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。鄭州の新都心を囲むように2棟がリニアリニアに配置された商業施設。相互の棟の間には賑わいを創出する通りを設け、さらに2階は通りに面してテラスを設ける。随所にブリッジを設けることで、回遊性を生み出している。基本構想担当。
14. 昆明CBD	共	2003年3月～2003年4月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。マレーシアクアラルンプール郊外の錫の採掘後の池を利用して、国際的なゲノム研究の拠点施設を計画。ユニットとなる研究施設の基本設計担当。
15. 北京 セントラルアークシス設計競技	共	2003年1月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。昆明の空港とその周辺の都市計画の提案である。基本計画において空港周辺エリアの建築物基本構想担当。
16. 日本看護協会ビル	共	2002年1月～		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。永定門北側に展開される歴史博物館と商業施設。これらの施設は地下に設けられ、地上は緩やかな起伏に富んだ散策路を設けた庭園としている。全体統括。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
17. 在ギリシャ日本大使館	共	2004年3月 2001年8月～ 2002年5月		京表参道で前面に公開空地を設けることでポケットパークを作り、周辺の壁面線からセットバックさせることで建物全体が近づくまで見えなくなる。1,2階を店舗とし、人が回遊する空間を作った。表参道に面した幅広い階段から裏側に抜ける空間を作り自然の風と光が通り抜けるテラスを設けた。監理とアフターケアを担当。 株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。アテネのハランドリ地区に建てられた外部省の在外公館。夏季の40度を超える暑さに対して外断熱工法を採用した。また屋上には日射角度を考慮しながらデザインされた太陽光発電を取り入れている。実施設計担当。
18. 旭川合同庁舎 I 期工事	共	2000年8月～ 2001年7月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。旭川シビックコア地区に立つ。外断熱工法、センターコアのプランとし、夏季は北側室内の冷気を、冬季は南側室内の暖気を空調に利用し、屋上では太陽光発電を行うエコ庁舎である。基本設計、実施設計を担当。
19. N邸	共	1998年1月～ 1998年6月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。1998年1月1998年6月 東京都練馬区小竹向原のアトリエを併設した彫刻家の住宅。実施設計とアフターケアを担当。
20. 天野製薬 岐阜研究所	共	1997年6月～ 1998年8月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。起伏のある地形を利用し、丘の頂点の緑を保存した自然と共生する建築である。アメニティ空間や事務室などの小部屋を片流れの屋根の高い側に中間階として配置することで屋根が低い側に大空間の実験室が設けられている。基本計画においてエントランスホールと実験室周辺の計画担当。
21. 福井県立恐竜博物館	共	1996年12月～ 2000年7月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。国際的な恐竜化石研究の拠点となる施設として計画された。地層の断層を思わせるファサードから3階の入り口に入った来館者はダイレクトに地下1階の壁面展示がなされた通路に導かれ、通り抜けた先に30体以上の骨格標本がみられる大展示空間に導かれる。プロポーザルから設計、2年間の常駐現場監理、アフターケアまで担当。公共建築賞受賞。
22. 久慈市文化会館 アンバーホール	共	1996年4月～ 1996年12月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。大ホールと中ホールの二つのホールが背中合せに配置され、中央のホワイエを共用可能。正面にガラスの円錐形の玄関ホール棟があり、来館者はこの円錐形の玄関ホールより、中央のホワイエへ導かれる。外壁はチタン打込みのコンクリート打放し。円錐形の玄関ホール棟は街のメインストリートの中心軸に置かれており、街のランドマークとなっている。基本設計でのオーデトリウム平面計画、実施設計での館内すべての階段設計担当。
23. 大阪国際会議場 グランキューブ	共	1996年3月～ 1996年5月		黒川紀章 高橋守男 藤沢康宏 西川建 大井史江 外観はスーパーコラムによる外壁と大梁トラスをそのまま表現している。内部は日本らしさの表現として折り紙のモチーフが随所に用いられている。実施設計でデザインモチーフとなる折り紙の形状の提案と10階会議室のインテリア計画を担当。
24. 石橋町グリムの森のいばら館	共	1995年8月～ 1996年6月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。栃木県石橋町立の多目的ホール。姉妹都市提携を結ぶドイツのシュタインブリュッケンにちなんだドイツ風建築の監理を担当。栃木県マロニエ賞受賞。
25. 京セラ本社ビル	共	1994年9月9日～1995年11月		株式会社黒川紀章建築都市設計事務所における担当作品である。京都市内の産業振興の拠点として伏見地区に誘致された株式会社京セラの本社ビル。南外壁面に自社制作のソーラーパネルを配している。また、1階にはギャラリー、敷地東側は公開空地として枝垂桜をグリッド状に植えるなど市民が親しめる空間を提案している。基本計画での景観シミュレーションと実施設計でのインテリアを担当。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 一般教育の知的遺産を活かす(その5) - 専門教育の一般教育	共	2013年6月1日	大学教育学会	志津木敬 大井史江 まどかアッセマ庸代 大学教育学会ラウンドテーブルにおいてレポーターとして発表。武庫川女子大学建築学科と建築学専攻のカリキュラムは演習・講義・

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
化一				フィールドワークが有機的に編成されている。さらに有機的建築を提唱したF. L. ライトの弟子である遠藤が設計した甲子園会館を校舎とした学習環境とカリキュラムが有機的に関連して教育が実践されている事例を報告。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年7月1日～現在	伊丹市建築審査会審査委員
2. 2014年6月24日2015年3月31日	姫路市自転車等駐車場等・管理事業者選定委員会委員
3. 2013年1月～現在	大学教育学会会員
4. 2009年～現在	西宮南商店街まちなみ協議会
5. 2008年4月	用海小学校改築工事設計委託プロポーザル審査委員
6. 2007年9月～2014年8月31日	尼崎市特別養護老人ホーム設置法人等選定委員会委員
7. 2007年～現在	日本建築家協会会員
8. 2007年～現在	日本建築学会会員
9. 2006年～2010年	さくらFM番組審議会審議委員